

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-125015

(P2010-125015A)

(43) 公開日 平成22年6月10日(2010.6.10)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 17/04 (2006.01)	A 4 7 B 17/04	3 B 0 5 3
A 4 7 B 17/00 (2006.01)	A 4 7 B 17/00	A 3 J 0 2 4
A 4 7 B 96/04 (2006.01)	A 4 7 B 96/04	B
F 1 6 B 12/12 (2006.01)	F 1 6 B 12/12	C
F 1 6 B 12/14 (2006.01)	F 1 6 B 12/14	
審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 11 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2008-301733 (P2008-301733)	(71) 出願人	000139780
(22) 出願日	平成20年11月26日 (2008.11.26)		株式会社イトーキ
			大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番12号
		(74) 代理人	100074561
			弁理士 柳野 隆生
		(74) 代理人	100124925
			弁理士 森岡 則夫
		(74) 代理人	100141874
			弁理士 関口 久由
		(71) 出願人	390005452
			伊藤喜オールスチール株式会社
			千葉県野田市尾崎2288
		(74) 代理人	100074561
			弁理士 柳野 隆生
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 デスク用パネル及びその取付構造

(57) 【要約】

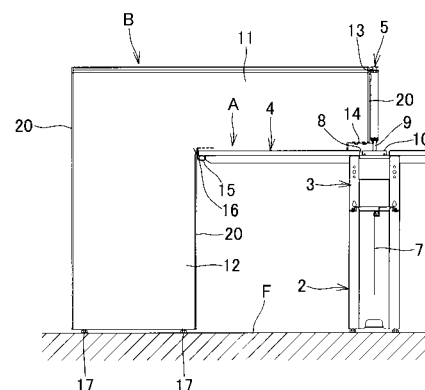
【課題】

天板の後端に机上パネルが立設されたデスクにおいて、天板上のみならず、着座スペースも含めたワークスペースを区画して形成することができ、しかも従来のサイドパネルと同様に机上パネル及び天板に簡単に取付けることができ、更に支持状態も安定であるデスク用パネル及びその取付構造を提供する。

【解決手段】

天板4の後端に机上パネル5が立設されたデスクAに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネルBであって、天板上に載る水平部分11と通路の床面Fまで延びた垂直部分12を有する倒L字形状であり、水平部分の後端部を机上パネルに上係止具13と下係止具14で係止するとともに、水平部分と垂直部分のコーナー部16を天板の前縁部にクランプ15で締め付けて連結する。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

天板の後端に机上パネルが立設されたデスクに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネルであって、天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒 L 字形の形状であり、前記水平部分の後端部を前記机上パネルに上係止具と下係止具で係止するとともに、前記水平部分と垂直部分のコーナー部を前記天板の前縁部にクランプで締め付けて連結することを特徴とするデスク用パネル。

【請求項 2】

天板の後端に机上パネルが立設されたデスクに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネルの取付構造であって、前記デスク用パネルは、天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒 L 字形の形状であり、前記机上パネルの表面上端部に沿って係止溝を形成するとともに、下端部に沿って下方へ開放した凹溝を形成し、前記水平部分の後端部上端に設けた上係止具を前記係止溝に上下方向から係止し且つ前記水平部分の後端部下端に設けた下係止具を前記凹溝に前後方向から係止するとともに、前記水平部分と垂直部分のコーナー部に設けたクランプで前記天板の前縁部を締め付けて連結することを特徴とするデスク用パネルの取付構造。

【請求項 3】

前記デスク用パネルの水平部分の後端部上端に設けた前記上係止具には、前記机上パネルの係止溝に係止する下向き爪を上下動可能に設け、前記水平部分の後端部下端に設けた前記下係止具には、前記机上パネルの凹溝に係止する上向き爪を前後移動可能且つ固定可能に設け、前記水平部分と垂直部分のコーナー部に設けた上下動可能且つ固定可能なクランプで前記天板の前縁部を上下から締め付けて連結する請求項 2 記載のデスク用パネルの取付構造。

【請求項 4】

前記デスク用パネルの垂直部分の下端部にアジャスターを設け、前記上係止具、下係止具及びクランプで前記机上パネルと天板に取付けた後、前記アジャスターを床面に圧接してなる請求項 2 又は 3 記載のデスク用パネル。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、デスク用パネル及びその取付構造に係わり、更に詳しくは天板の後端に机上パネルが立設されたデスクに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネル及びその取付構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、天板の後端に沿って机上パネルを立設したパネル付きデスク、あるいは独立したデスクを前後に背面を合わせて側方へ列設したデスク配置、又は共通の脚部材で前後に天板を支持するとともに、側方へ次々に連結した構造のデスク列において、前後の天板間に机上パネルを立設した構造は公知である。そして、これらの机上パネル（フロントパネル又はバックパネルとも称される）を有するデスクシステムにおいて、前述の机上パネルとともにサイドパネルを天板上に立設して、前後左右の区画を行うことも公知である。ここで、サイドパネルの取付構造についても各種の構造が提案されている。

【0003】

特許文献 1 には、机上パネルの両側部に形成した上下の係止穴に、サイドパネルの後端に取付けた後部連結金具の係止爪に係合するとともに、サイドパネルの前端下部を天板の前縁にクランプ構造の前部連結金具で取付けている。ここで、前部連結金具は、天板に前方から被さる状態で嵌まる側面視コ字状のクランプ体と、クランプ体の下水平部に下方から被さる状態で嵌まる正面視上向き開口コ字状の押さえ部材と、押さえ部材を貫通してク

ランプ体の下水平部に下方からねじ込まれるビスとによって構成されており、ビスをねじ込むと押さえ部材が天板の下面に突っ張り、クランプ体の下水平部が天板の上面に強く押圧され、クランプ体は天板に固定されるのである。

【0004】

特許文献2には、サイドパネルの端部を机上パネルのパネル面に突き合わせ、サイドパネルの少なくとも2箇所に設定した受圧部と机上パネルの対応部位との間を、これらに着脱可能に係り合わせた第1の緊締機構によって前記端部を前記パネル面に押し付ける方向に緊締するとともに、サイドパネルの前記端部と直交する直交端部を同時に天板の上面に突き合わせ、サイドパネルのうち前記受圧部から机上パネルとは反対側へ変位した部位に設定した受圧部と天板の対応部位との間を、これらに着脱可能に係り合わせた第2の緊締機構によって前記直交端部を前記天板の上面に押し付ける方向に緊締するように構成したことを特徴とするパネル連結構造が記載されている。ここで、第2の緊締機構として、ネジで天板の前端部を上下から挟持するクランプ機構が例示されている。

10

【0005】

ところで、従来のサイドパネルは、個人が使用する机上空間を左右に仕切って、プライバシーを確保したり、落ち着いてデスクワークを行えるようにすることが設置目的であることから、天板の上位のみに位置する比較的小さなパネル板が用いられ、またサイドパネルの前端下部を天板の前端に取付けるクランプ機構も小型の簡易な構造のものが用いられている。机上パネルとサイドパネルの仕切りだけでは、ワークスペースの独立性が不足する場合、ローパーティションを平面視L字形、コ字形、T字形、十字形等に連結して区画し、その区画された空間にデスクを設置している。

20

【特許文献1】特開2008-073467号公報

【特許文献2】特開2008-119412号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

そこで、本発明が前述の状況に鑑み、解決しようとするところは、天板の後端に机上パネルが立設されたデスクにおいて、天板上のみならず、着座スペースも含めたワークスペースを区画して形成することができ、しかも従来のサイドパネルと同様に机上パネル及び天板に簡単に取付けることができ、更に支持状態も安定であるデスク用パネル及びその取付構造を提供する点にある。

30

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、前述の課題解決のために、天板の後端に机上パネルが立設されたデスクに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネルであって、天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒L字形の形状であり、前記水平部分の後端部を前記机上パネルに上係止具と下係止具で係止するとともに、前記水平部分と垂直部分のコーナー部を前記天板の前縁部にクランプで締め付けて連結することを特徴とするデスク用パネルを構成した（請求項1）。

【0008】

また、本発明は、前述の課題解決のために、天板の後端に机上パネルが立設されたデスクに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネルの取付構造であって、前記デスク用パネルは、天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒L字形の形状であり、前記机上パネルの表面上端部に沿って係止溝を形成するとともに、下端部に沿って下方へ開放した凹溝を形成し、前記水平部分の後端部上端に設けた上係止具を前記係止溝に上下方向から係止し且つ前記水平部分の後端部下端に設けた下係止具を前記凹溝に前後方向から係止するとともに、前記水平部分と垂直部分のコーナー部に設けたクランプで前記天板の前縁部を締め付けて連結することを特徴とするデスク用パネルの取付構造を構成した（請求項2）。

40

【0009】

50

ここで、前記デスク用パネルの水平部分の後端部上端に設けた前記上係止具には、前記机上パネルの係止溝に係止する下向き爪を上下動可能に設け、前記水平部分の後端部下端に設けた前記下係止具には、前記机上パネルの凹溝に係止する上向き爪を前後移動可能且つ固定可能に設け、前記水平部分と垂直部分のコーナー部に設けた上下動可能且つ固定可能なクランプで前記天板の前縁部を上下から締め付けて連結することが好ましい（請求項3）。

【0010】

更に、前記デスク用パネルの垂直部分の下端部にアジャスターを設け、前記上係止具、下係止具及びクランプで前記机上パネルと天板に取付けた後、前記アジャスターを床面に圧接してなることがより好ましい（請求項4）。

【発明の効果】

【0011】

以上にしてなる請求項1に係る発明のデスク用パネルは、天板の後端に机上パネルが立設されたデスクに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネルであって、天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒L字形の形状であり、前記水平部分の後端部を前記机上パネルに上係止具と下係止具で係止するとともに、前記水平部分と垂直部分のコーナー部を前記天板の前縁部にクランプで締め付けて連結するので、天板上のみならず、着座スペースも含めたワークスペースを区画して形成することができ、これまでに無いコンセプトのパネルをデスクのオプションとして提供することができ、デスクの利用形態が更に豊富になる。つまり、本発明のデスク用パネルを用いることによって、従来の机上サイドパネルでは達成し得ない、従来のローパーティションによる区画に匹敵する、ワークスペースの高度な独立性を確保することができ、しかも構造が簡単であるので安価に提供することができる。

【0012】

また、請求項2に係る発明のデスク用パネルの取付構造は、天板の後端に机上パネルが立設されたデスクに取付けて該机上パネルとでワークスペースを区画形成するデスク用パネルの取付構造であって、前記デスク用パネルは、天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒L字形の形状であり、前記机上パネルの表面上端部に沿って係止溝を形成するとともに、下端部に沿って下方へ開放した凹溝を形成し、前記水平部分の後端部上端に設けた上係止具を前記係止溝に上下方向から係止し且つ前記水平部分の後端部下端に設けた下係止具を前記凹溝に前後方向から係止するとともに、前記水平部分と垂直部分のコーナー部に設けたクランプで前記天板の前縁部を締め付けて連結するので、前記下係止具を前記机上パネルの下端の凹溝内に位置させた後、上係止具を机上パネルの上端部の係止溝に上下方向から係止し、それから下係止具を前後方向、特に手前側に引き寄せて凹溝の前縁部に係止し、最後に前記クランプで天板の前縁部を上下から挟持して立起状態に取付けることができ、またデスク用パネルの垂直部分の下端を床面に接触させることにより更に安定に保持することができる。

【0013】

請求項3によれば、前記デスク用パネルの水平部分の後端部上端に設けた前記上係止具には、前記机上パネルの係止溝に係止する下向き爪を上下動可能に設け、前記水平部分の後端部下端に設けた前記下係止具には、前記机上パネルの凹溝に係止する上向き爪を前後移動可能且つ固定可能に設け、前記水平部分と垂直部分のコーナー部に設けた上下動可能且つ固定可能なクランプで前記天板の前縁部を上下から締め付けて連結するので、机上パネルと天板への取付作業が容易であり、また元々デスク用パネルは、水平部分の後端部が直接的又は間接的に机上パネルに当接するとともに、下端が天板上に載置されているので、後方及び下方への変位がない上に、上係止具の下向き爪と下係止具の上向き爪とで前方移動を規制することができ、下係止具の上向き爪で上方への移動を規制することができ、しかもクランプによってデスク用パネルの略中央部が全方向への移動を規制することができ、取付状態が非常に安定である。見方を変えれば、デスク用パネルの略中央部をクランプで固定され、このクランプを支点としての回転変位は、水平部分の後端部が上係止具と

下係止具とで机上パネルに支持され、垂直部分の下端が床面に接触して支持されているので、確実に規制することができるのである。

【0014】

請求項4によれば、前記デスク用パネルの垂直部分の下端部にアジャスターを設け、前記上係止具、下係止具及びクランプで前記机上パネルと天板に取付けた後、前記アジャスターを床面に圧接してなるので、デスク本体の重量を利用してデスク用パネルの変位を確実に規制することができ、更に安定に支持することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

次に、添付図面に示した実施形態に基づき、本発明を更に詳細に説明する。図1及び図2は本発明のデスク用パネルを組立式デスクに取付けてワーススペースを区画形成した使用例を示し、図3～図9はデスク用パネルの取付構造の詳細を示し、図中符号Aは組立式デスク、Bはデスク用パネル、1は端部脚、2は中間脚、3は脚間モジュール、4は天板、5は机上パネル、6はサイドパネル、7は幕板をそれぞれ示している。

【0016】

本実施形態に係る組立式デスクAは、両端部に配する端部脚1、1、中間に配する複数の中間脚2、…、脚間を連結する複数の脚間モジュール3、…及び天板4、…を有し、前記端部脚1と中間脚2、あるいは両側の中間脚2、2に、前後中央部にダクト開口8を設けて天板4、4を前後に載置固定するとともに、前記ダクト開口8内で前記端部脚1及び中間脚2に取付けた支持部材9、…に机上パネル5、…を取付けるとともに、ダクト開口8にはダクトカバー10、…を装着し、更に前記端部脚1の上部で外側面には前記机上パネル5と同じ高さの端部パネル6を取付けて構成している。ここで、前後の天板4、4の端部とダクトカバー10の間には、コードを挿通するための隙間を設けている。また、前記各脚間モジュール3の下部には、パンチングメタル製の幕板7を吊り下げている。

【0017】

通常、前述の組立式デスクAは、前後一对の天板4、4、中間脚2及び脚間モジュール3を単位として次々に連結してデスク列を構成し、それらデスク列を平行に所定間隔を置いて複数設置して使用する。そして、デスク列は中央部の机上パネル5、…で前後に仕切られており、各天板4の前に着座して対面状態でデスクワークを行うのである。

【0018】

本発明のデスク用パネルBは、天板4上に載る水平部分11と通路Cの床面まで延びた垂直部分12を有する倒L字形の形状である。そして、図2に示すように、前記デスク用パネルBは、水平部分11の後端部を前記机上パネル5に上係止具13と下係止具14で前記机上パネル5の上下端部に係止するとともに、前記水平部分11と垂直部分12のコーナー部16を前記天板4の前縁部にクランプ15で締め付けて連結する構造となっている。また、前記デスク用パネルBの垂直部分12の下端前後には上下高さを調節可能なアジャスター17、17を設け、床面Fに圧接できるようになっている。

【0019】

ここで、前記机上パネル5は、上端部に沿った表裏両側に係止溝18、18を有するとともに、下端部に下方へ開放した凹溝19を有している。一方、前記デスク用パネルBの水平部分11と垂直部分12の側縁には、図4に示すようなエッジ部材20が設けられている。前記エッジ部材20は、中央部と両側の三箇所に係合溝21、…が形成されたアルミ押出し型材である。

【0020】

前記上係止具13は、図4及び図5に示すように、略T字形の部材であり、上部に前記机上パネル5の係止溝18に係止する下向き爪22、22を両側に形成するとともに、両下向き爪22、22の間に切欠部23を形成し、下部に前記デスク用パネルBのエッジ部材20の両側の係合溝21、21に上下動可能にスライド係合する係合片24、24を形成したものである。また、前記下係止具14は、図6及び図7に示すように、略T字形の部材であり、一端部に前記机上パネル5の凹溝19に係止する上向き爪25、25を形成

し、基部には長孔 26, 26 を形成し、前記デスク用パネル B の水平部分 11 の後端部下端に形成した切欠部 27 に沿って埋設した固定金具 28 に螺孔 29, 29 を形成し、前記長孔 26, 26 に下方から通したネジ 30, 30 にて締結するようになっている。つまり、前記下係止具 14 は、ネジ 30 を緩めた状態では前後移動可能であり、ネジ 30 を締め付けて所定位置で固定するのである。

【0021】

そして、前記上係止具 13 の係合片 24, 24 を、前記デスク用パネル B のエッジ部材 20 の両側の係合溝 21, 21 にスライド可能に係合するとともに、前記下係止具 14 の長孔 26, 26 に下方から通したネジ 30, 30 を前記固定金具 28 に緩く螺合した状態で、前記下係止具 14 の上向き爪 25, 25 を机上パネル 5 の凹溝 19 の下側に位置させるとともに、前記上係止具 13 の下向き爪 22, 22 を机上パネル 5 の係止溝 18 に係止する。それから、前記デスク用パネル B を位置決めした後、下係止具 14 を手前に移動させて上向き爪 25, 25 を凹溝 19 の前縁に係止した状態で、前記ネジ 30, 30 を締め付け、更に前記上係止具 13 の両下向き爪 22, 22 間の切欠部 23 と係止溝 18 内に弾性部材 31 を詰め込んで、該上係止具 13 の上方移動を規制する。

【0022】

また、前記クランプ 15 は、図 8 及び図 9 に示すように、上部に前記デスク用パネル B の水平部分 11 のコーナー部 16 近傍の下端に固定する固定部材 32 と、該固定部材 32 に対して上下方向に変位する押圧部材 33 とからなる。尚、前記押圧部材 33 の上面にはゴム製の緩衝板 34 を貼着している。前記固定部材 32 は、コーナー部 16 近傍内部に埋設固定する水平な固定板 35 と、該固定板 35 から下方に延び、下方になるにつれて幅広とした垂直板 36 と、該垂直板 36 の下端に前記固定板 35 と平行に設けた支持板 37 を有するとともに、前記支持板 37 の両端部には螺孔 38, 38 を形成したものである。前記押圧部材 33 は、前記支持板 37 を内部に収容できるものであり、上面板 39 の両側に下方へ断面 L 字形の保持片 40, 40 を折曲形成し、両保持片 40, 40 の対向する下片 41, 41 にそれぞれ通孔 42, 42 を形成したものである。

【0023】

そして、前記固定部材 32 の支持板 37 を抱き込むように前記押圧部材 33 を外挿し、下方から締結ネジ 43, 43 を該押圧部材 33 の下片 41, 41 の通孔 42, 42 に挿入するとともに、固定部材 32 の支持板 37 に形成した螺孔 38, 38 に螺合する。そして、前記デスク用パネル B の水平部分 11 の下端を前記天板 4 の上面に載置するとともに、前記押圧部材 33 を天板 4 の下面に位置させ、前述のように該水平部分 11 の後端を前記上係止具 13 と下係止具 14 とで机上パネル 5 の上下端部に係止した後、前記クランプ 15 の締結ネジ 43, 43 を右回りに回転させて締め付けると、前記押圧部材 33 が上昇して上面板 39 に貼着した緩衝板 34 が天板 4 の下面に圧接して取付ける。つまり、前記水平部分 11 の下端と緩衝板 34 とで天板 4 を上下から締め付けて固定するのである。最後に、前記アジャスター 17, 17 を回転させて床面 F に圧接する。前述のように、前記固定部材 32 の支持板 37 は横幅を広くし、それに伴って前記押圧部材 33 の上面板 39 も横幅が広くしたので、前記天板 4 の下面に対する接触面積が増大し、より安定である。ここで、前記デスク用パネル B の水平部分 11 の下端にゴム製の緩衝板を貼着し、前記天板 4 の上面に圧接するようにすれば、多少前記締結ネジ 43, 43 が緩んでも接触抵抗が大きいので、前後左右に移動することがないのである。

【0024】

このように、前記上係止具 13、下係止具 14 及びクランプ 15 による 3 点支持と、該クランプ 15 から離れた位置にあるアジャスター 17, 17 が床面 F に圧接することにより、前記デスク用パネル B を机上パネル 5 と天板 4 に強固に連結することができ、もってデスク用パネル B を立起状態に強固に保持することができる。それにより、前記机上パネル 5 とデスク用パネル B とで、天板 4 の上から着座スペースにわたって区画されたワークスペースを形成することができる。

【0025】

次に、図 10 及び図 11 は、二列のデスク列 A 1, A 2 の間に通路 C を設けた典型的なデスク配置において、本発明のデスク用パネル B を用いて、前記通路 C にオプションを設置して管理職やマネージャーの使用するコ字形デスク空間 D を創出した使用例を示している。つまり、本実施形態に係るワークステーションは、図 10 に示すように、少なくとも二列のデスク列 A 1, A 2 を、両デスク列 A 1, A 2 の天板 4, 4 が向かい合うように間に通路 C を設けて平行に設置したデスク配置において、端部より中央寄り位置で、両デスク列 A 1, A 2 の各机上パネル 5, 5 間を連続するように仕切パネル 4 4 で区画する。そして、図 11 に示すように、通路 C に面して対向する天板 4, 4 間に、該仕切パネル 4 4 に沿って補助天板 4 5 を配置し、両天板 4, 4 と補助天板の背面から両デスク列 A, B の机上パネル 5, 5 に連続させる。つまり、前記補助天板 4 5 と両側の天板 4, …とで形成した複合天板を、仕切パネル 4 4 と両側の机上パネル 5, …で囲ってコ字形デスク空間 D を創出するものである。

10

【0026】

前記仕切パネル 4 4 は、各デスク列 A 1, A 2 に取付けた前記デスク用パネル B, B とその間の空間を塞ぐ四角形の間仕切パネル 4 6 とで構成する。また、前記補助天板 4 5 は、通路 C に設置した下キャビネット 4 7 を脚部とし、その上に取付けて前記天板 4 と同じ高さに支持する。ここで、両デスク列 A 1, A 2 に取付けられた両側のデスク用パネル B, B の間に、前記間仕切パネル 4 6 の両側縁を連結して保持するのであるが、それにはデスク用パネル B と間仕切パネル 4 6 の側縁に埋設した前記エッジ部材 20 の中央部の係合溝 21 を利用し、断面略 H 字状の連結部材を両係合溝 21, 21 に嵌合して連結する。

20

【図面の簡単な説明】

【0027】

【図 1】デスクに本発明のデスク用パネルを取付けてワークスペースを形成した状態の斜視図である。

【図 2】同じくデスクとデスク用パネルの簡略側面図である。

【図 3】同じく要部の全体拡大側面図である。

【図 4】上係止具を用いて机上パネルの上端部に取付けた状態の部分拡大側面図である。

【図 5】上係止具の分解斜視図である。

【図 6】下係止具を用いて机上パネルの下端部に取付けた状態の部分拡大側面図である。

30

【図 7】下係止具の分解斜視図である。

【図 8】クランプを用いて天板の前縁部に取付けた状態を示し、(a) は部分拡大側面図、(b) は部分拡大断面図である。

【図 9】クランプの分解斜視図である。

【図 10】本発明のデスク用パネルを用いてデスク列の通路を仕切った状態の側面図である。

【図 11】デスク列の通路を利用してワークステーションを構成した使用例を示す斜視図である。

【符号の説明】

【0028】

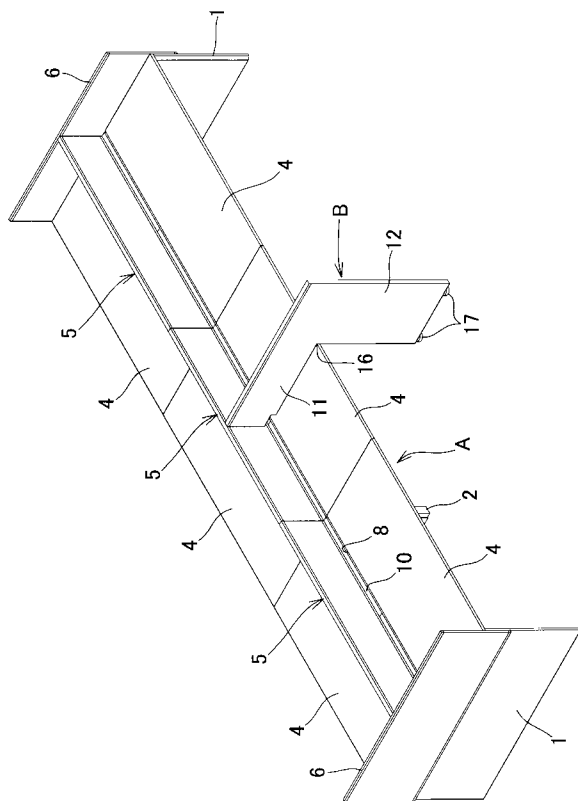
A 組立式デスク、	A 1, A 2 デスク列、
B デスク用パネル、	C 通路、
D コ字形デスク空間、	F 床面、
1 端部脚、	2 中間脚、
3 脚間モジュール、	4 天板、
5 机上パネル、	6 端部パネル、
7 幕板、	8 ダクト開口、
9 支持部材、	10 ダクトカバー、
11 水平部分、	12 垂直部分、
13 上係止具、	14 下係止具、

40

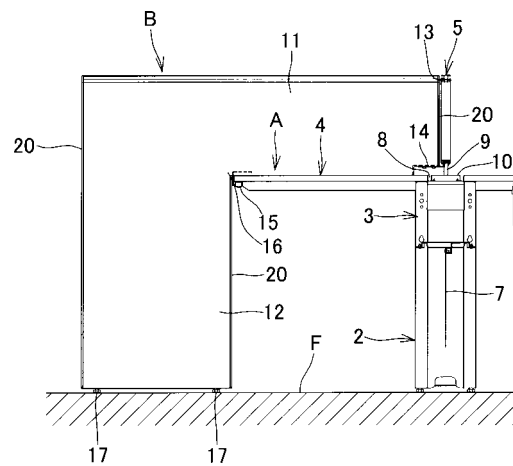
50

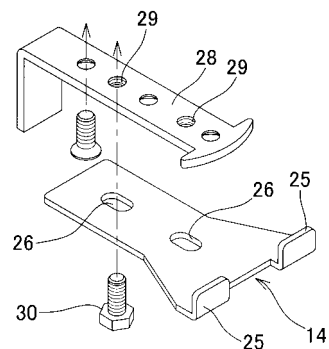
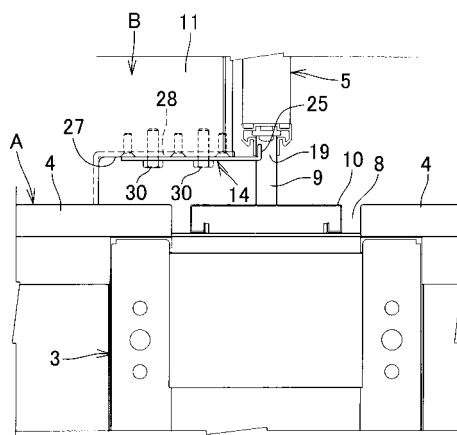
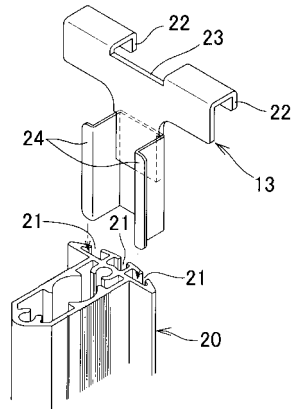
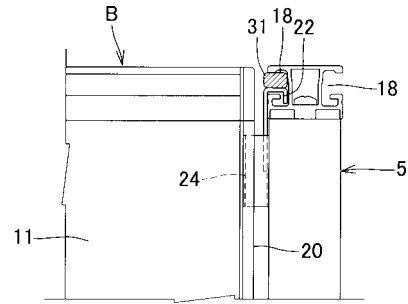
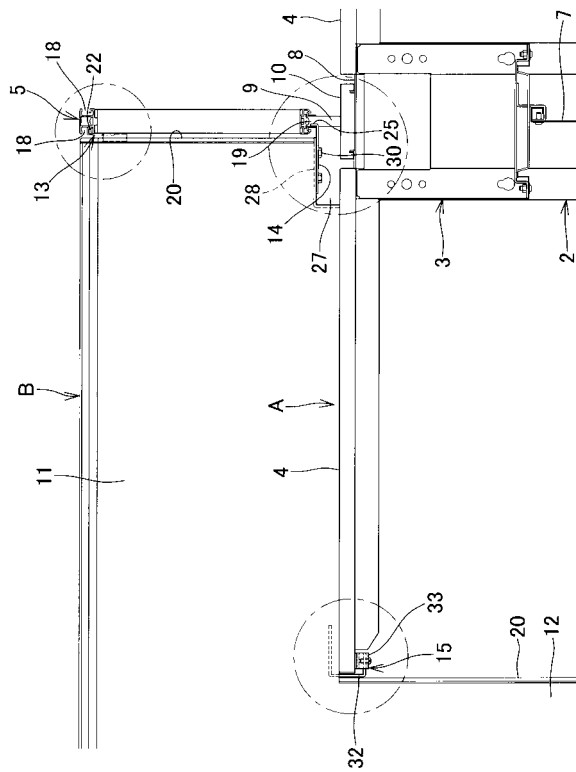
- | | | | |
|----|----------|----|----------|
| 15 | クランプ、 | 16 | コーナー部、 |
| 17 | アジャスター、 | 18 | 係止溝、 |
| 19 | 凹溝、 | 20 | エッジ部材、 |
| 21 | 係合溝、 | 22 | 下向き爪、 |
| 23 | 切欠部、 | 24 | 係合片、 |
| 25 | 上向き爪、 | 26 | 長孔、 |
| 27 | 切欠部、 | 28 | 固定金具、 |
| 29 | 螺孔、 | 30 | ネジ、 |
| 31 | 弾性部材、 | 32 | 固定部材、 |
| 33 | 押圧部材、 | 34 | 緩衝板、 |
| 35 | 固定板、 | 36 | 垂直板、 |
| 37 | 支持板、 | 38 | 螺孔、 |
| 39 | 上面板、 | 40 | 保持片、 |
| 41 | 下片、 | 42 | 通孔、 |
| 43 | 締結ネジ、 | 44 | 仕切パネル、 |
| 45 | 補助天板、 | 46 | 中間仕切パネル、 |
| 47 | 下キャビネット。 | | |

【図 1】

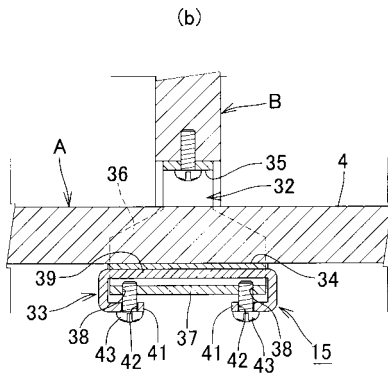
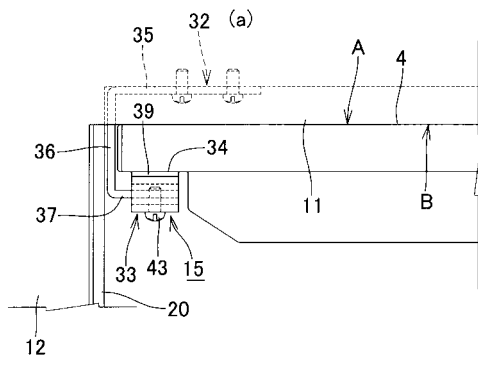


【図 2】

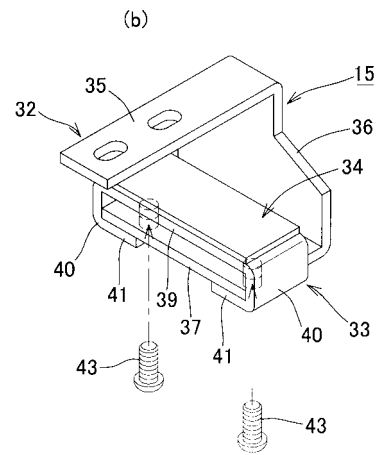
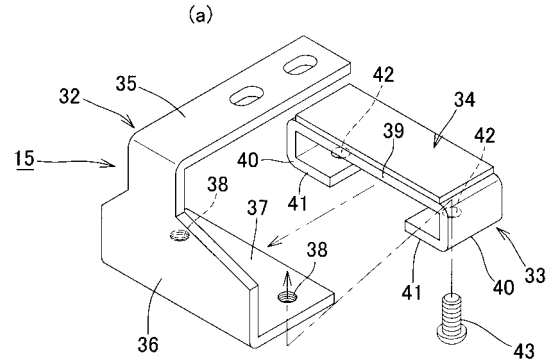




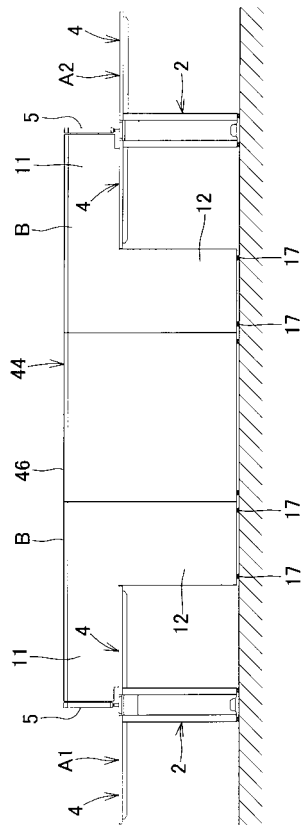
【図 8】



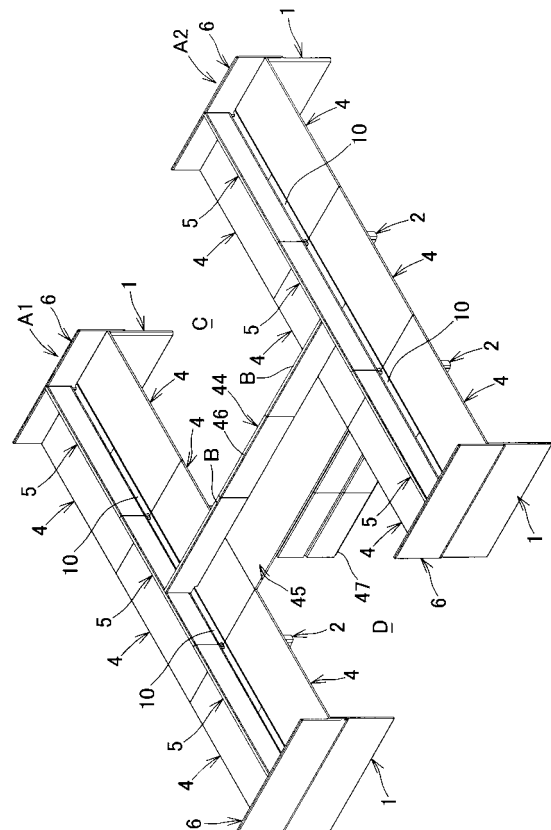
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード (参考)
F 1 6 B	12/02	(2006.01)	F 1 6 B 12/02	F
F 1 6 B	12/20	(2006.01)	F 1 6 B 12/20	B

(72)発明者 村松 秀樹
大阪市城東区今福東 1 丁目 4 番 1 2 号 株式会社イトーキ内

(72)発明者 鈴木 昇
千葉県野田市尾崎 2 2 8 8 番地 伊藤喜オールスチール株式会社内

(72)発明者 澤村 真一
千葉県野田市尾崎 2 2 8 8 番地 伊藤喜オールスチール株式会社内

F ターム (参考) 3B053 SA01 SA05
3J024 AA45 CA03 CA18